

演習 I

科目ナンバリング SEM-301
必修 2単位

今野 久子

1. 授業の概要(ねらい)

人口増加が期待できない時代を迎え、大学では、「智」や「技術」のみならず学生の活動をまちづくり分野に活かす試みが多く見られるようになっていく。一方、本学八王子キャンパスが立地する多摩ニュータウンは、日本を代表する大規模開発として、超高齢化やコミュニティ再生など現在の地域課題への対応においても先進地域であり、ここで今、様々な場面に若者の力を活かすことへの期待がこれ迄以上に高まっている。この両者の係りから生まれるのは、「学生は、実社会で多くの大人に接し、他では体験できない多様な学びを得る」―「地域の各主体は、コミュニティ再生の方法を模索し蓄積する」という、いわゆるウィン・ウィンの相互関係である。

本演習は、本学が掲げる「実学」を「PBL(problem based learning)」の形で試みる立場から、学生目線での地域経営(エリアマネジメント論)を講究し、将来のまちづくりや地域貢献・NPO(的)活動に資する経験・スキルアップにも繋げることを目指して開講する。キャンパス周辺のニュータウン地域のなかで具体的な現場と係る実践的・試行的な取組みについて、これまでに構築してきた地域との関係を一層深めつつ、現場の課題・状況に即して段階的に取組み展開を図る。今後の地域づくりが着実に志民協働に向かっていることからグループワークを行う。具体的には、日野市百草地区にある空き家(みなもぐの家)の活用について、日野市都市計画課・所有者や地域住民グループ、近隣住民、近隣事業者など現場の関係者との協議・調整を尊重し、学生目線で主体的なフィールド活動を計画立案し、実践を行う。これまで約1年半の準備・試行を経て、今年度は地域の協力者との関係の一層の深化とそれに向けた活動の展開を重視する。なお、受講者の関心領域に応じて関係者をゲストとして招聘し、或いは視察研修の実施や視察先での関係者の話を聞く機会をつくる。

2. 授業の到達目標

- (1)地域経営(エリアマネジメント論)について基本的な知識をもち、ニュータウン地域・対象とする現場の喫緊の具体的課題を説明することができる。
- (2)日野市百草地区にある空き家活用について、自主的に研究テーマ設定や研究方法を考え、グループによる活動計画を立て、協力して実践することができる。コロナ禍における対応方法を工夫して行動することができる。
- (3)現地での諸活動やヒアリング調査等を通じて地域・現場に受け入れてもらうための作法を身につけることができる。
- (4)グループによる協働の活動成果、およびこれらを通じて学んだこと、次年度以降への提案事項について、一年間の成果報告を取りまとめ発表することができる。

3. 成績評価の方法および基準

演習系科目のため出席は必須。評価は、グループワークへの参加・主体的な貢献が50%、活動の推進とその経過報告が25%、研究・活動の成果取りまとめと報告が25%の配分によって総合的に評価する。

4. 教科書・参考文献

教科書

以下の資料・参考書を適宜用いるほか、授業のなかで適宜紹介する。

参考文献

今野久子・大下茂 (2022(3月刊行予定))『志民協働による景観と観光をつくる戦略と手法』 共同文化社
中川寛子 (2015)『解決!空き家問題 ちくま新書1153』 筑摩書房
小林英嗣他 (2008)『地域と大学の共創まちづくり』 学芸出版社
国土交通省 「エリアマネジメント」に関するホームページ掲載資料(エリアマネジメント推進マニュアル等)
多摩ニュータウン学会編集委員会 『季刊 多摩ニュータウン研究 (各号)』 中央大学出版部
上野淳・松本真澄 (2012)『多摩ニュータウン物語 オールドタウンと呼ばせない』 鹿島出版会

5. 準備学習の内容

授業時間内の活動と併せて授業時間外においても、①実践的活動のベースとなる基礎知識の習得、②地域の各関係者との関係構築、地域との交流・貢献について、計画的・積極的に取り組むこと。

①については、日野市空き家計画、空き家活用や大学生の活動事例、地域防災など関心あるテーマについて、資料調査および必要に応じたヒアリング調査等による基礎的研究を行い、空き家(みなもぐの家)の活用との関りの観点から、実践的活動の参考になる知見として取りまとめること。

②については、みなもぐの家の積極的活用を通して、日野市都市計画課、所有者、近隣住民との関係を一層深めるとともに、さらに、みなもぐの家に関わることが期待される有志や地域住民グループ(親子・高齢者等)、近隣事業者、周辺地域などとの協働の取り組み(地域イベント等)の実現に向けて、学生提案を踏まえた協議・調整、告知、実践および検証を行うこと。

6. その他履修上の注意事項

活動はすべてグループ単位で行い、協力して検討・実践する基本姿勢を徹底してほしい。基礎知識の習得、現場の課題の把握や実践的活動の検討に際しては「物の見方や捉え方」「実現に至る過程や背景」の重要性に気付き、マニュアル思考から脱皮して、就職の際の差異・個性、卒業後必須の知識・思考を身につけてほしい。一連の活動・研究を通じて論理性・協調性・コミュニケーション力・プレゼンテーション力や各種PCソフトの技能等も身につくことに期待している。なお、学生自らが設定する活動スケジュールは、地域との交流のため土曜日を計画的に含め、振替え・代休で対応することもある。

7. 授業内容

- | | |
|-------|---|
| 【第1回】 | 4/20 イントロダクション
みなもぐの家の活用の全体像(長期構想、関係主体)、日野市空家計画
グループ編成、役割分担 |
| 【第2回】 | 4/27 現地調査(修理箇所等の確認)◆学外授業1
※所有者・近隣 挨拶 |
| 【第3回】 | 5/11 活動テーマ 検討 |
| 【第4回】 | 5/18 活動内容・スケジュール 素案 |
| 【第5回】 | 5/25 活動内容・スケジュール 案 |
| 【第6回】 | 6/1 活動内容・スケジュールの調整(所有者、関係者、協力者 等) |
| 【第7回】 | 6/8 GW 活動準備 |

- 【第8回】 6/15 GW 連絡・告知(掲示物作成、情報配信等)
【第9回】 6/22 GW 活動準備(関係者調整等)
【第10回】 6/29 GW 活動準備(関係者調整等)
【第11回】 7/2(土曜日) GW 活動準備 ◆オンライン回(zoom会議形式)
【第12回】 7/6 GW 連絡・告知(掲示物作成、情報配信等)
【第13回】 7/13 GW 活動準備(関係者調整等)
【第14回】 7/20 イベント活動 ◆学外授業2(※土曜日に振替・代休を想定)
【第15回】 7/27 前期の総括・検証、夏季休暇および後期の進め方
(注)以上はあくまでも想定であり、現場の状況等を見極め柔軟に対応しつつ、段階的に取組みを進める。